



平成 26 年 10 月 23 日

各 位

会 社 名 宝ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 柿本 敏男
(コード番号 2531 東証 第1部)
問 合 せ 先 財務・IR部長 掛見 卓也
T E L (0 7 5) 2 4 1 - 5 1 2 4

平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 26 年 5 月 8 日に公表した平成 27 年 3 月期(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)の第 2 四半期累計期間の連結業績予想を下記の通り修正しますので、お知らせいたします。

記

1. 平成 27 年 3 月期 第 2 四半期累計期間の連結業績予想数値の修正(平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前回発表予想 (A) (平成 26 年 5 月 8 日発表)	101,000	2,570	2,570	1,250	6 円 21 銭
今回修正予想 (B)	101,000	3,200	3,400	1,800	8 円 95 銭
増 減 額 (B-A)	0	630	830	550	-
増 減 率 (%)	0.0	24.5	32.3	44.0	-
ご参考:前期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期累計)	97,561	2,395	2,564	6,609	32 円 58 銭

2. 修正の理由

連結売上高につきましては、消費増税後の個人消費の回復の遅れや天候不順の影響などによる国内酒類事業の売上高の計画未達を、海外酒類事業、海外日本食材卸事業の売上増加で補いほぼ前回予想通りとなる見通しです。

利益面では、主には国内酒類事業における原材料価格の上昇が計画の範囲内で推移していることや、海外日本食材卸事業の売上高原価率が計画より改善したこともあり、営業利益は前回予想を 630 百万円(24.5%)上回る見込みとなりました。これに加えて、営業外収支の改善や特別利益の計上もあり、連結経

常利益は 830 百万円 (32.3%)、連結四半期純利益は 550 百万円 (44.0%)、それぞれ前回予想を上回る見通しとなりました。

なお、当第 2 四半期累計期間の四半期純利益に関しましては、前期対比で大幅に減少する見込みですが、これは前期に当社子会社(タカラバイオ株式会社)の株式の一部売出しに伴い、関係会社売却益を計上したことにより、一時的に四半期純利益が大幅に増加していたことによるものです。

また、本日、当社の連結子会社であるタカラバイオ株式会社(コード番号 4974 東証マザーズ)も、第 2 四半期累計期間の連結業績予想の修正発表をおこなっております。

3. 平成 27 年 3 月期 通期の連結業績予想について

通期の連結業績予想につきましては、現在精査中であり、平成 26 年 11 月 5 日に予定している第 2 四半期決算発表時にお知らせする予定です。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、平成 26 年 11 月 5 日発表予定の第 2 四半期決算発表数値とは異なる可能性があります。

以 上

当資料取り扱い上の注意点

当資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。